

2021年度修了生の皆様 修了おめでとうございます

<2021年度専任教員退任挨拶>



「次なる出会いへ」

篠原 真 教授

2017年4月に、実務家教員として着任し、監査論を担当してから、あっという間の5年間でした。

ここ2年間は、皆さんと同様、コロナ禍でのオンライン授業やリモートワークという不自由な環境を余儀なくされましたが、「禍を転じて福と為す」「禍も三年置けば用に立つ」ということわざのように、デジタル化の洗礼を受けたと思い、この経験を将来に生かしていきたいと思っています。

講義について振り返りますと、監査論というのは、取っ付きにくい科目ですので、少しでも身近に感じてもらえればと思い、私の

若い頃の失敗談など、実務の話を取り混ぜながら講義を進めてきました。

皆さんの監査論学習のモチベーション向上にいささかでも貢献できたでしょうか？

また、教員と学生という関係ではありますが、それに加えて、私の出身業界である会計士業界を目指す後輩に対し、先輩として接するようなスタンスも心掛けてきました。

この業界に入った後のイメージがわくような話を皆さんに届けることができたでしょうか？

そして、会計士業界を振り返りますと、30数年前、私が監査法人に入所した時、先輩たちから、「これからの会計士は、コンピュータと英語だ」と言われました。今、皆さんが監査法人に就職しても、おそらく、「これからの会計士は、ITと語学だ」と言われるのではないのでしょうか。事程左様に、世の中には、変わるものと変わらないものがあるようです。

変化のスピードが速いというのが現代の特徴と言われています。最近のニーズでは、グリーンとデジタル、すなわちサステナビリティレポートとアシュアランスやRPA、AIといったITが話題になっています。さらには従前からあるグローバル化や語学なども、依然として人気のあるニーズのようです。しかし、これらの流行のニーズの他にも、様々なニーズがあり、ニーズの分野もさることながら、それぞれのニーズのボリュームも重要なポイントになります。

皆さんが、会計研卒業後、自分に合った分野に出会えるよう願っています。

会計士業界は意外と狭い業界です。次回は、実務の世界でお会いしましょう。

篠原先生ありがとうございました

2021年度修了生の皆様 修了おめでとうございます

〈2021年度専任教員退任挨拶〉



人生100年時代、 「会計＋1（プラスワン）」で深い学びを

村松 洋介 教授

このたび退任し、出向元の国税庁に戻ることとなりました。私が着任したのは、一昨年(2020年)の4月。日本でも新型コロナウイルスが広がって、ちょうど最初の緊急事態宣言が発令される頃でした。オンライン授業の受講が始まり、皆さんは苦勞されたことでしょう。私も異例の教員生活が始まりました。それでも、同年の秋学期からは対面授業となり、教室で双方向性を確保した講義を展開できたことはありがたかったです。

私としては本会計研究科の強みである「会計＋1(プラスワン)」を常に意識し、租税法を切り口にしていかに付加価値をつけてもらうかに腐心してきました。租税法を通じて法学一般の素養も同時に身につけること、裁判例などの一次資料に直接触れて自らの力で論理を構築していくことが重要です。

租税法では、法人税法や所得税法の個別の知識を修得するだけでなく、なぜそのような規律がなされているのかを考えることも大切です。また、皆さんが社会に出てから直面するのは、「答えのない」問題ばかりです。先行の知見を踏まえつつ、生のデータ・素材から直接自分の頭で考えていくことが必要になってきます。

こうした訓練は、人生100年時代を生き抜くにあたっても重要でしょう。会計という専門領域を深く学び、またプラスワンで付加価値を高めることで、自らの学びのスタイルを身につけることができます。こうして得た技能・能力は普遍性を持ち、携帯可能な(ポータブルな)ものです。将来、他の分野を学ぶに当たっても、大いに役立つことでしょう。

最後に私自身としても、授業、ワークショップ、テーマ研究などを通じて教育活動を実践し、また研究活動を行うことができたことは、人生100年時代においてとても大きな財産になりました。

今後も会計研究科の発展を祈念するとともに、応援もしていきたいと考えています。

どうもありがとうございました。

村松先生ありがとうございました